



## 電気通信普及財団賞(テレコム学際研究学生賞)受賞論文

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:610

論文	著者	所属	評価
<p>Finding and Generating a Missing Part for Story Completion</p> <p>国際会議 The 4th Joint SIGHUM Workshop on Computational Linguistics for Cultural Heritage, Social Sciences, Humanities and Literature 2020年12月</p>	<p>森 友亮 山根 宏彰 棕田 悠介 原田 達也</p>	<p>東京大学 大学院情報理工学系研究科 博士後期課程5年 理化学研究所 革新知能統合研究センター 特別研究員 東京大学 先端科学技術研究センター 講師 東京大学 先端科学技術研究センター 教授</p>	<p>本論文は、ストーリーのどこに欠落があるかを予測し、文章を補完する深層学習手法を提案している。小説の執筆活動の創作支援という観点から書かれた論文で着眼点は独創的であり、論文としての完成度も高い。欠落文書の位置推定や欠落している文書の補完についても不十分であり、得られた成果は直ちに有用であるとまでは言えないが、学際研究としての意義は大きい。</p>

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:608

論文	著者	所属	評価
<p>アルゴリズムの判断はいつ差別になるのか — COMPAS 事例を参照して</p> <p>国内学会誌 応用倫理, 2021年3月</p>	<p>前田 春香</p>	<p>東京大学大学院学際情報学府 博士後期課程1年</p>	<p>アルゴリズム差別はAIの重要課題として注目を集めている。本論文は、技術倫理の側からではなく倫理学の規範理論を適用し、具体的には人種的バイアスが議論になったCOMPAS(アメリカの再犯リスク評価プログラム)について検証を行い、個人の尊厳に反するような表現を提示することで道徳的に不正な差別を行っていることを示した、挑戦的かつレベルの高い学際的研究である。今後は他の事例にも取り組まれ、研究の深化・発展に期待する。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコム学際研究学生賞)受賞論文

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:603

論文	著者	所属	評価
知識構築活動におけるアイデア向上プロセス分析に基づく学習成果を向上させる条件  国内学会誌 日本教育工学会、日本教育工学会論文誌、 2021年6月	川久保 アン ソニージェイ 太稀 大島 純 大島 律子	静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学専攻 修士課程2年 静岡大学情報学部 教授 静岡大学情報学部 教授	本論文は、アイデアという抽象的な概念について、Problem-based Learning (PBL)に参加した大学生のノートに基づいてアイデア向上のプロセスを分析し、アイデア向上と学習成果を上げる3条件を明らかにした点、またその際、学生同士の対話音声について定性分析も行っている点が評価できる。また限定的な状況の下での結果であること、分析・評価手法の一部に関して主観的な部分が見られることは今後改良すべき点と思われる。